

い も と 文 化

## ジャガイモと映画 (19)

### <ジャガイモ袋 (1)>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お  
浅間 和夫

我が国のジャガイモ産地から消費地への輸送は、加工工場等の大口へはフレキシブル又は鉄製コンテナにより、競りのある青果市場等へはダンボール箱に入れて行われることが多い。これに変わる前は、稲藁やえん麦稈で編んだ俵が主流であり、時には吠<sup>いなり</sup>や麻袋も見られた。その頃の欧米は麻の繊維を編んで作った麻袋（南京袋）が使われていた。今日ではこれをコーヒード豆とかピーナッツの袋として目にした方がおられるかも知れない。今回はこのジャガイモ袋から生まれた文化について映画に絡めて紹介する。

### 69 『クリスタル殺人事件』

(原題：The Mirror Crack'd)

1980年、イギリス映画。監督：ガイ・ハミルトン。

アガサ・クリスティの原作『鏡は横にひび割れて』を基に映画化したものである。

1953年、ハリウッドの往年の大女優マリーナ・クレグ（エリザベス・テイラー）、その夫で映画監督であるジェイソン・ラッド（ロック・ハドソン）らが撮影のためロンドン郊外の普段は閑静な街を訪れ、町中を挙げての大歓迎パーティーで受け入れられる。

その際、野外ではゲームも行われ、なん



写真1 ポテト・サック・レース

とポテト・サック・レース (Potato Sack Race) が出てくる。各プレーヤーがジャガイモ用麻袋に入り、袋の上部をしっかりと掴んでスタート・ラインに並び、オリンピックなどで耳にするあの“On Your Mark”の声に続く合図と共にピョンピョン跳びつ、ゴールに向かうものである(写真1)。

室内では、マリーナのファンであるヘザー・バブコックが駆けつけ、見つけるや否や戦時中マリーナの慰問公演を見て感激し、舞台裏で彼女に思わずキスしてしまったという昔のことを興奮して一方的に語る。この時、製作者マーティ（トニー・カーティス）と共に主演女優でライバルのローラ（キム・ノヴァック）が到着し、マリーナの視界に入る。そのためか、その背後の階段に飾られた聖母子像を見つめたためか、一瞬顔をこわばらせ氷のように固まる。そ

れに続いてジェイソン監督がマリーナのために持って来たカクテルをもらって飲んだヘザーが突然倒れ、急死する。

この村には推理好きで有名な老婦人ミス・ジェーン・マープル（アンジェラ・ランズベリー）が住んでいる。その甥のクラドックはスコットランド・ヤードの警部であり、睡眠薬にカクテルのアルコールが効いたことを知らず。毒の入手経路を調べるなどの一般捜査で行われそうな話は出てこず、マープルのお手伝いさんの情報を効果的に活かし、機知と観察眼と想像力で事件を解決するミステリーであり、興味深い。

## 70 『遙かなる戦場』

（原題：The Charge of the Light Brigade）

1968年、イギリス映画。監督：トニー・リチャードソン。

2014年、ウクライナ南部のクリミア半島にロシア軍が侵攻し、世界の注目を集めた。これまでも、黒海に突き出したこの土地は、多くの戦争の舞台となってきた。例えば、クリミア戦争（1853～1856年）は黒海沿岸の覇権をかけて、ロシア帝国対オスマン・トルコ、さらにトルコを支援するフランスやイギリスなどヨーロッパ諸国の間で起こった戦争である。

この映画はそのクリミア半島に派兵された軽騎兵隊の話である。イギリス軍の総司令官にラグラン男爵（俳優ジョン・ギールグット）、陸軍司令官にルーカン卿、陸軍軽騎兵旅団長に第7代カーディガン子爵（T.ハワード）が任命される。

バラクラバの戦いで、総司令官ラグランは丘の上に立ち、ルーカンに進撃を命じたが、敵の大砲にまっすぐに突撃することに

なるため、命令に従いかねていた。これを知りラグランは命令を繰り返す。その命令を伝えるためノーラン大尉は志願して丘を下る。ついにルーカンはカーディガンに突撃を命令し、進撃速度が増してきた時、ノーランは、大声で叫びながら最前線までとび出す。一斉射撃が起り、ノーランは倒れる。彼は突撃進路が間違っていることを伝えようとしたのだった…。一口でまとめると、司令官や将校たちの愚行や兵士が死んでいく中であって、なお責任をなすり合う愚かさを痛烈に描いたもの、と言える。

筆者としては、戦いの経過やそれに繋がる責任が誰にあるのかではなく、この戦いで生まれたファッションについてふれたい。

この戦いの結果としてジャガイモを運んだ麻袋と傷病兵がたくさん出ることになる。総指令官ラグラン男爵は、この二つを前にして、次のような一石二鳥の解決策を指示する。「使ったジャガイモ麻袋の左右の角を切り落とし、傷病兵が楽に着られる服をつくれ」、と。これがゆったりとして着やすいラグラン・スリーブ（写真2）の元祖



写真2 ラグラン・スリーブの誕生

となった。実はラグランはナポレオンとのワーテルローの戦い（1815）で負傷し、右腕を失っていた。負傷した腕の兵士でも脱ぎ着が容易となり、肩のあたりが動きやすくなった。蛇足ながら、毛糸やニットで作られ、襟がなく前開きでボタンの着いたカーディガンは、セーターを前開きにしてボタンでとめ保温のため重ね着してたカーディガン伯爵の名前に由来し、その後英国紳士のファッションともなったものである。

## 71 『帰らざる河』

（原題：River of No Return）

1954年、アメリカ映画。監督：オットー・プレミンジャー。

同名の主題歌を歌うマリリン・モンローが主演の西部劇である。背景は1875年のカナディアン・ロッキーの急流。開拓者マット（ロバート・ミッチャム）は、妻が死んでから酒場の歌手ケイ（マリリン・モンロー）が世話していた息子を引き取り、開拓農民としての生活を始める。ある日、農場の横を流れる激流で、マットはケイと彼女の婚約者でギャングのハリー（カル・ホーン）が筏で漂流しているのを救ってやる。ところがそのハリーはマットから馬と拳銃を奪って逃げてしまう。

ハリーが去ると同時に農場が先住民に襲撃されそうになったため、マット、マーク、そしてケイは筏で“帰らざる河”を下ることになる。シネスコ初期作品で、激流を下るシーンをクライマックスに迫力たっぷりと描く。奇跡的に町に着き、ケイは酒場で歌手として仕事を始める。ラストシーンでケイことモンローが酒場の歌姫として主題歌を唄うが、これが当時大ヒットした。

モンローとジャガイモと言えば、本シリーズ(5)-22『七年目の浮気』のポテトチップスとブランディを頭に浮かべていただけるかと思うが、筆者はもうひとつ加えておきたい。かつてマリリン・モンローが赤いドレスを着てビバリーヒルズホテルのパーティーに参加したとき、新聞のコラムニストが『ドレスも中身も下品で安っぽくジャガイモ袋がお似合いだ』、と捨て台詞を吐いた。モンローは激高することなく、その言葉を逆手に取るかのように、20世紀フォックス社と彼女は『米国1のアイダホ・ポテト』と書いた麻袋を使ってドレスを制作し、全国の新聞に掲載した（1951年、写真3）。この作戦は成功を納め、美しく、セクシーなことをアピールできたと言う。



写真3 ジャガイモ袋をドレスに